

令和二年度 兵庫県立姫路東高等学校 学校関係者評価シート

学校 教育 目 標	基本方針 校訓「自主・創造・友愛」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人格の陶冶を図り、地域社会や国際社会に貢献できる有為な人材を育成する。	重 点 目 標	1 単位制の特性を生かし、授業の充実と教育内容・方法等の改善を図って、生徒一人ひとりの個性や能力・適性、進路に応じた教育活動を展開し、魅力ある学校、地域から信頼される学校づくりを進める。
	1 個に応じた教育活動を推進し、基礎・基本を確実に定着させ、生徒自ら主体的に判断し行動できる資質や能力の向上を推進する。 2 さわやかな学校づくりを通して、互いが思いやり、豊かな人間関係を育むとともに生命や人権を尊重する人間性の向上を推進する。 3 教育活動を積極的に公開し、家庭や地域社会との密接な連携を図ることにより、地域から信頼される学校、魅力ある学校づくりを推進する。		2 基礎・基本の定着と活用する力の育成に努める一方で、キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりが自ら学ぶ意欲や思考力・判断力などの生きる力を育み、生涯にわたって学習する能力の育成に努める。 3 道徳教育・体験活動や部活動などを通して、ふれあいを大切にし、互いを思いやり、自他の生命や人権を大切にする心の教育の充実を図るとともに、生徒の豊かな人間性や社会性を育むことにより、地域に貢献する人材を育成する。 4 地域との連携を密にし、国際理解教育、防災教育、安全教育など多様な教育内容等の評価を公表し、学校の活性化とすばらしい校風づくりに取り組む。 5 教員一人一人が教育者としての使命を意識し、専門家としての自覚を高め、日々の取組や研修を通して、広い視野と専門的な知識や指導力の向上に取り組む。

4…できた 3…どちらかというときにできた 2…どちらかというときできなかった 1…できなかった 0…わからない から1つを選択して回答

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	職員評価平均	学校関係者評価
学 校 運 営	学校運営全般	校内組織の連携	1	各分掌が重点目標を掲げ、機能的な組織の編成や部署間の連携を図りながら、教職員が協働して目標を達成できるよう努めている。	2.8	・学校運営に関しては外から見えない部分もあるが、しっかりとやっていたらと確信し、また期待もしている。 ・中学生向けの学校紹介動画に感心した。先生が作られたとのこと、素晴らしいと思う。 ・進路指導が丁寧で、その姿勢は全教職員に共有されていると思われる。 ・教育力の向上が求められている中で、授業改善に向けた研究や研修が必要だと思う。特に、新学習指導要領の実現に向けた認識を深め、2030年に向けた新しい教育への理解と実践について、学校全体の取組が期待される。
	単位制の充実	個に応じた丁寧な指導	2	多様な選択科目を設け、生徒一人ひとりの個性や能力・適性、進路に応じた教育活動を展開している。	2.9	
		キャリア教育の推進	3	職業ガイダンスセミナーや大学・企業訪問等、キャリア発達を促す様々な機会を設け、主体的な進路選択能力の育成を図っている。	2.9	
	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	4	授業公開を実施するとともに、ホームページや年次通信等を通じて、家庭や地域に情報を発信している。	3.1	
	生徒指導	ハラスメント対策(いじめ防止)	5	いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.4	
	教育相談	生徒の内面理解に係る指導の工夫	6	キャンパスカウンセリングを実施し、生徒の内面理解に努めるとともに、関係機関と連携して適切に対応している。	3.5	
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路結果を分析した上で、状況に応じた年間計画を作成し、生徒の進路希望に応じた指導を組織的に行っている。	2.9	
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	8	研究授業や公開授業を計画的に実施し、内容や指導方法について意見交換を行うなど授業改善や指導力向上に取り組んでいる。	2.5	
		研修成果の共有と校内研修の実施	9	学校の諸課題(不登校等)について校内研修を実施し、校外研修に参加した場合にはその内容を全教職員に報告し、共有している。	3.0	
教 育 課 程	個別最適化された学習指導の徹底	学力の的確な把握と指導方法・形態の工夫	10	生徒の学力を的確に把握した上で、各教科の特性に応じて、習熟度別授業や少人数指導などの効果的な指導方法を工夫、実践している。	3.2	・同窓会の支援で、スタディールームの改修工事が進んでいる。SSHの活動や授業等に活用してもらいたい。 ・昨今の社会情勢を踏まえ、ICT機器やオンラインを活用した授業など、積極的に進めていただきたい。 ・学力の向上に向けての取組については全体的にまずまずの状況ではないかと感じる。また、SSHに関しては初年度であるが、すでに一定の評価が示されていると思う。今後も、教職員が協働して取り組んでいく必要があるが、SSHを軸として好循環となるように期待している。 ・学校の総合的な取組が充実していることが示されていると思う。
		評価方法の創意工夫	11	各教科・科目において、評価基準や評価方法について研究し、それぞれに適した評価を導入している。	2.9	
	学校行事	学校行事のあり方	12	学校行事検討委員会を定期的に開催し、生徒の主体性や社会性を伸ばすことのできる行事の精選と内容の充実を図っている。	2.9	
	ICT教育の導入	ICT機器の活用	13	ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化を図るとともに、生徒の情報活用能力の育成にも力を入れている。	3.3	
	特別活動	地域に奉仕する心の育成	14	地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	2.5	
生徒会活動の活性化		15	生徒会行事を生徒会に企画・運営させることで自立の精神を養い、生徒会活動の活性化を図っている。	2.7		
S S H	課題研究	問題解決型学習の展開	16	自ら設定したテーマに基づく課題研究の中で、課題設定、仮説検証、まとめ等の過程を通じて、問題解決能力を育成している。	3.2	
		体験的活動の実施	17	課題研究の過程で、実験や検証、野外調査など体験的活動を多く取り入れ、グループワークや発表などにも取り組んでいる。	3.3	
	SSH事業の活用	SSH事業への取組	18	SSH事業を活用し、学校設定科目や特別講義等、特色ある教育活動を展開するとともに、成果を評価・検証し、全教職員で共有している。	2.9	
そ の 他	防災教育	防災危機意識の向上	19	防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.2	
	保健・安全教育	実践的な保健・安全教育への取組	20	日常的に感染症予防を意識して行動するよう喚起したり、定期的に救急救命講習を実施するなど、保健・安全教育を行っている。	3.5	
	人権教育	人権教育の計画的推進	21	3年間を通して計画的・段階的に人権教育を実施し、人権問題に主体的に取り組む態度を育成している。	3.1	
	情報教育	情報活用能力の育成と情報モラルの向上	22	情報機器を積極的に活用して、発表や情報発信を行うとともに、それに伴う責任を理解させ、情報モラルの向上を図っている。	3.0	
	国際理解教育	国際交流の推進	23	国際交流の機会を提供し、自国と他国の歴史や文化の違いを正しく理解させ、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	2.8	
	環境教育	環境保全に対する意識の高揚	24	社会と自分とのつながりを意識し、環境に関わる問題や環境に対する人間の責任と役割を理解させる教育を行っている。	2.7	

(注) 新型コロナウイルスによる影響で行事や活動が中止となり、「0 わからない」の回答が多くありました。全体の傾向をつかむために「0」の回答は集計に加えておりません。